

対岸の想像力

——チュヴァシの口碑におけるヴォルガ——

北海道大学スラブ研究センター
研究員 後藤正憲

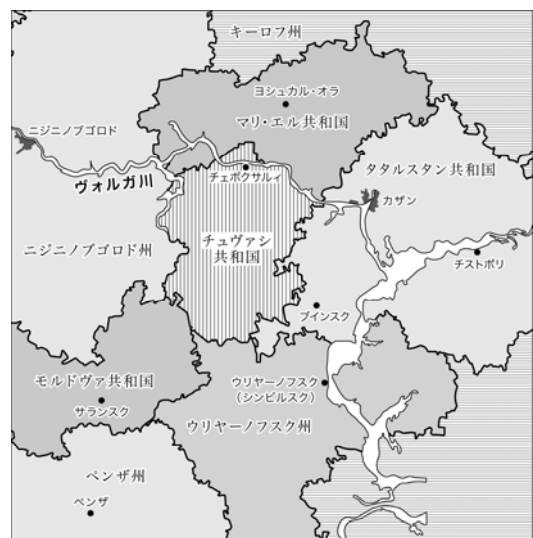
1. はじめに： 本報告の目的

文字を媒体にした歴史の記述＝記録が行われず、いわゆる無文字社会における文化や歴史の研究では、よく口碑あるいは口承文芸と呼ばれる文化的表象が、人々の過去の記憶をとどめる装置として研究対象とされる。実際に口承の文化的表象が形成され伝えられる上では、過去の時間的・空間的記憶がどのような働きをしているのだろうか。本報告では、ロシアのヴォルガ中流域に位置するチュヴァシに伝わる口碑の中から、ヴォルガにまつわるいくつかの例を取り上げながら、この問題について考察を行う。

2. 背景の状況

まず、簡単に背景の状況を押さえておきたい。チュヴァシ共和国は、モスクワからおおよそ 600 km 東にあるチェボクサルイ市を中心として、ヴォルガ川以南（一部以北の土地を含む）、スラ川以東に広がる、おおよそ 18300 平方 km の面積（四国の面積よりやや小さめ）の土地に位置する。共和国内で暮らす約 130 万人の人口のうち、おおよそ 67% のチュヴァシ人と 26% のロシア人が大半を占める。共和国の名称を表す民族が全人口の中で占める割合は、周辺の共和国と比べても、チュヴァシでは幾分高いことが特徴的である [Васильева 2000: 21]。

チュヴァシの位置するヴォルガ川中流域は、民族や言語、宗教などの文化的要素の多様性が顕著である。言語に関して言うと、ロシアはスラヴ語系、マリとモルドヴァがフィン・ウゴル語系に属するのに対し、チュヴァシはタタールとともにテュルク語系に属す。16 世紀半ばイワン雷帝の時代にロシアに編入されて以来、キリスト教化の進んだチュヴァシでは、ムスリムの比率が高いタタールと違って、住民のほとんどがロシア正教を信仰する。しかしそれと同時に、人々の日常的な習慣の中には、16 世紀以前のモンゴル・タタール汗国時代、あるいはそれ以前のブルガル王朝時代のイスラム的要素や、また土着の宗教的要素も多く見



ヴォルガ川中流域地図

られる。その典型として挙げられるのが、今日でも広く人々の信頼を集める占い師の存在である。

3. 邪視祓いの呪文

チュヴァシの占い師は、かつてユモシュ (юмăç) と呼ばれ、チュヴァシの信仰実践において重要な役割を果たしていた。今日でも病気や災いが起こったとき、チュヴァシの人々はその原因と対処法を求めて、しばしば占い師のもとを訪ねる。ユモシュはト占によって人々の相談に応える。ユモシュの行う対処法としては、供犠・供物の指定、原因の除去、呪文などが挙げられる。中でも呪文は、ト占から治病までの過程で常にとまなうものであり、ユモシュの実践に不可欠の要素となっている。

一方、邪視はチュヴァシのみならず世界的に見られる概念で、他人の眼差しの力によって病や災いを引き起こされるというものである。ここで議論の皮切りに、人から受けた邪視を落とすためにユモシュが唱えたとされる呪文を取り上げてみよう。呪文にはヴォルガを越えて移動する特徴的な人物が表象されており、次はその部分を切り取ったものである。

<例 1>

| | | |
|-----------------------------|-------------------------------|---------------------|
| ... Атӓл урлӓ, Сӓр урлӓ | Из-за Волги, из-за Суры | ヴォルガを越え、スラ川を越えて、 |
| Аша патман карчӓк килнӓ. | Прибыла старуха Аша патман. | Ажябатман婆さんがやって来た。 |
| Çаварӓнче пӓр шӓл, | Во рту единственный зуб, | 口には歯が一本、 |
| кутӓнче пӓр тӓк, | В заду единственный волос. | お尻には毛が一本、 |
| Çав тӓтӓрет, çав кӓларат... | Она выкуривает, она изгоняет. | 彼女が燻して [病を] 追っ払う。 |

[Месарош 2000: 266]

呪文には様々なバリエーションがあり、紹介される事例によって少しずつ違っているが、共通点も多い。ヴォルガを越えて来た老婆（バリエーションによっては老人）が登場することがその一つで、その形象は多くの邪視祓いの呪文に共通して見られる。またそれに対して「歯が一本、毛が一本」（他のバリエーションでは「金の歯、金の毛」、さらに同じ内容で銀、銅…と繰り返される）のように同じ形容詞が反復され、いわゆる「共感貫通修飾語」が用いられている [ボガトウイリョーフ 1988: 99]。また次のバリエーションで端的に表されているように、ユモシュは自らの行う動作の主体を、呪文の中の人物に転位させる。

<例 2>

| | | |
|---------------------------------|---|--------------------|
| Эп вӓрместӓп, эп сурмастӓп, | Не я заклинаю, не я плююсь, | 私が呪うのではない、私は唾しない、 |
| Атӓл йӓлӓмӓнчен, Сӓр йӓлӓмӓнчен | С левобережья Волги, с левобережья Суры | ヴォルガの対岸から、スラの対岸から |
| Ашпатман карчӓк килет, | Идет старуха Ашпатман, | Ажябатман婆さんがやって来る |
| Çав вӓрет, çав сурать | Она заклинает, она плюется. | 彼女が呪い、彼女が唾する |

[Ашмарин 2003: 321]

ユモシュはその治病術の様々な動作（乾燥したきのこを燻す、唾を吐く、息を吹きかける、呪文を唱える等）をしながら、それは自分がやっているのではなく、ヴォルガの向こうから来た人物がやっているのだと言うのである。呪文が形式的なものであるとしても、なぜわざわざこのようなことが唱えられたのか？ そもそも、ヴォルガの向こうから来た「アジャバトマン」とはいったい誰なのか？

こうした疑問は、かつての民族誌家たちの心をも捕らえていたらしい。20世紀初頭にチュヴァシに滞在し、多くの口碑を収集したハンガリー人民族誌家ジュラ・メサロシュ (Gyula Mészáros 1883-1975) は、奇妙な名前を持つ老婆「アジャバトマン」のモデルを、昔名の知られていた治病師で、ユモシュの先駆者に当たる人物に見出している。ちょうどトランス状態のシャーマンによって精霊の幻覚が引き起こされるように、ユモシュの呪文においては過去の著名な治病師が呼び起こされるという [Месарош 2000: 263]。

一方、全 17 巻におよぶチュヴァシ語辞典を編纂したアシュマーリンは、「アジャバトマン」を、マホメットの妻「アイシャ」と娘「ファティマ」の結合したものとしている [Ашмарин 1929: 211]。先のメサロシュとアシュマーリンのいずれも、過去の特定人物あるいは特定の時代の記憶が、ユモシュの呪文に織り込まれているとする見方を示している。果たしてチュヴァシの治病術の現場では、いったい何が想起されていたのか？

4. 記憶と表象

ヤーコブソンはフォークロアの性質について分析した論文の中で、口碑では文字を媒体にした文学に比べて、作者による個人的創意が作品に反映されにくく、共同体の規範に則した制約的体系の枠内で存続するとしている [ヤーコブソン 1985]。フォークロアは「共同体の前もっての検閲」を通り、社会的規範に適うものだけが受容される。

同様にスペルベル [Sperber 1985] も、口碑の伝統においては社会的に記憶されやすいものが表象となって現れるという。ただしその記憶は、線状的な事実の想起が直接表象につながっているのではない。むしろ、完全には理解されず、適格な表象が形成されない情報を処理する能力として、彼が「メタ表象能力」と呼ぶものが、すぐれた受容性を引き出す。それは、例えば子供にとっての死の概念のように、直接それを理解することはできないが、大人たちの表情を通して漠然とその意味するところを感じ取るような能力を表す。「メタ表象能力」は単なる想起 (recollection) にとどまらず、呼び起こし (evocation) の力を持ち、結果としていっそう記憶を強めることになる。

スペルベルはこのような「メタ表象能力」の及ぶ範囲として、普通は理解も表象もできないカオスのような状態を想定しているのではない。彼は、一方で主体の他の心的表象と密接に関わるものであり、他方で決して最終的な解釈が与えられない「適切な神秘」 (relevant mysteries) こそが、最も喚起力のある表象として文化的に受け入れられるという [Sperber 1985: 85]。つまり、ある表象が広く行き渡るには、それがただ単に曖昧模糊とした神秘だということではなく、その社会で有意性をもっていることがカギとなる。

これはタウシグのいう「暗黙の社会的知識」(implicit social knowledge)に近い。彼によると、「暗黙の社会的知識」は理由や方法がよく分からないまま人を突き動かし、現実を現実、正常を正常にしてしまう。本質的に分節不可能で論証的でない、社会的な相関性についてのイメージによる知識で、歴史と記憶の相互作用によって形作られる [Taussig 1987: 366-367]。

タウシグもスペルベルと同様に、代価を払って抑圧されていたものを解放するというエコノミーに回収されない記憶のあり方を、認識の「神秘的なひらめき」(mysterious flash)に見出す [Taussig 2000: 269]。つまり考古学のモデルで表されるように、表面から隠されていたものを労力を費やし掘り出すことによって、現実の記憶が回復されるのではなく、瞬間的なひらめきの中に現実の記憶が投影されるのである。彼は海辺の表象の歴史についての実験的な論考の中で、記憶と記憶されること(所記と能記)の間に模倣による結合が点火(喚起)され、そこに認識が「第二の自然」として瞬間的に現れてはまた突然消えてしまうことに、歴史の主要な現象を見出している。

ところで、チュヴァシに伝わる伝説の中には、「ヴォルガを越えること」(渡るのではなく)に「適切な神秘性」の付与されたものが、しばしば見受けられる。例えば、モルガウシュ地方に伝わる「澄んだ湖」の伝説。

<例 3>

サナトリウムのそばに澄んだ湖があった。昔、周辺の土地を耕していた人が、馬に犁をつけたまま水を飲ませていると、突然馬が犁もろとも地中に沈んで姿を消した。そこからヴォルガを挟んで対岸の土地に *çutǎ kǔl* (светлое озеро) という、やはり透き通った湖があったが、犁をつけたまま沈んだ馬は、なんとそのヴォルガ対岸の湖で見つかったということだ [モルガウシュ地方、カルシュラフにおける聞き取り]。

また、チュヴァシの歴史家ジミートリエフの紹介するヴォルガの盗賊にまつわる伝説。

<例 4>

昔、ヴォルガ右岸にチュラ・バトル (Чура паттър) という名の盗賊がいた。彼には、ヴォルガ左岸のアマクサリ (Амаксар)、フィルドウ (Хырту) というところに、それぞれ仲間の盗賊がいた。彼らはともに、ヴォルガ川を航行する商船を襲って暮らしていた。この 3 人は一本の大きな斧を共有し、必要なときはヴォルガ川を挟んで互いに川を投げ越して使っていた。ヴォルガを挟んで斧を投げあう巨人の表象は、チュヴァシの伝説的英雄伝の典型的モチーフになっている。[Димитриев 1986: 50]

いずれの例も、現実には接することのない二つの異なる空間が、突然つなげられることによって神秘が引き出されている。これらの例に鑑みて、ヴォルガを越えてやって来る老婆「アジャバトマン」は、その「適切な神秘性」によって川の向こう岸という「第二の自然」

を喚起するものだったと言える。

さらに付け加えると、ユモシュの呪文は「ヴォルガを越えてやって来る老婆」のような、言葉の表す内容が神秘性を持つものただでなく、言葉そのものが神秘性を帯びていたことが指摘できる。「言葉を知っている」(чѣлхине пѣлет) [Месарош 2000: 220] ということがユモシュの特別な能力とされ、その呪文の言葉自体が、スペルベルやタウシグのというような神秘性を引き出すものだった。そのスケールの大きさは、次のようなチュヴァシの諺からも伺える。

<例 5>

Чѣлхе Атáла та картлать Язык может даже Волгу 言葉はヴォルガをも堰き止める
теççѣ. перегородить, говорят. [Романов 2004: 98]

ユモシュの吐く言葉は超自然的な現実を呼び起こし、自然界では有り得ないようなことをも「第二の自然」として瞬間的に認識させる。

興味深いことに、かつての人々の想像力を現実のものにする水力発電所(ГЭС)の基礎工事が進んでいた1980年に、ソ連におけるチュヴァシ人の成果を宣伝する教育的な目的をもって書かれた図書では、「第二の自然」を瞬間的に浮かび上がらせる言葉の神秘的な作用が反復されている。下はロシア人のガガーリン、チートフに次ぎ、世界で第3番目の宇宙飛行士となったチュヴァシ人 А.Н.ニコラーエフを称える文章。

<例 6>

Космос... Самое популярное слово последних лет. Слово древнее и юное одновременно. Оно пришло к нам из далекого далека, в ореоле романтической недосыгаемости, и простым смертным, «земным» было недоступно. Оно было чем-то сродни мечте, это слово, и долго считалось лишь источником вдохновения поэтов и романтиков. И, как говорится, на наших глазах и в наших устах вдруг стало оно совсем земным.

宇宙…。近年広く行き渡るようになったこの言葉。非常に古いものでありながら、同時に年若くもある言葉。それは遠く空想的な至上の栄光に包まれ、人知の及ばぬはるか彼方から我々のもとにやってきた。それはほとんど夢に近く、長い間ただ詩人やロマンチストの靈感の源とされていた。それが今や、我々の目に映ったり口から飛び出したりして、この言葉が突如まったく地上のものとなった。

[Иванова и Иванов 1980: 80]

多くの人にとって、宇宙は依然として身の回りの自然から遠く離れたものである。そればかりか、物理的に言っても宇宙が「地上のもの」では有り得ない。しかし、同族の偉業に熱狂する言葉は、宇宙のような遠大な空間をも越え、地上の世界と宇宙とを一つに結ぶことによって、この時代に有意な「第二の自然」を呼び出している。

5. 認識の弁証法

古代についてのイメージが瞬時のひらめきによって呼び起こされ、「第二の自然」として

再自然化される過程を、タウシグはベンヤミンの概念を借りて「弁証法的イメージ」の作用に位置づけている [Taussig 2000: 254 ほか passim]。認識は瞬間的に現われ、また突然消えてしまうことによって、前とは異なる自然性を得る。

このことは、初期のフーコーが、病を身体機能の〈喪失〉という自然性に還元する見方を批判し、そのポジティブな側面とネガティブな側面の弁証法的な反応に注意を促している点に通じる。常に二重性をもち、〈裏側〉のある行為を統合するための社会的発展のなかに病を組み入れなければならない [フーコー 1997: 50]。このような二重性を、鷺田は「共軌的な関係」と表現している [鷺田 1997: 74]。「共軌」は、軌^{くびき}を共にして車を引くの意。一般に、緊密に結びついて相互に転化し合うような二つの概念を示す語)

さらにこれと関連性のある概念として、チェコスロヴァキアの民衆演劇についてボガトゥイリョフが指摘する現実と演出の二重性、いわゆる「弁証法的アンチノミー」が挙げられる。民衆演劇では、役になりきる俳優の感情や、演し物を現実のように捉える観客の知覚はともに明滅しており、それが芝居の中の演技であるという意識と現実の世界であるという意識が、交互に現れては消える [ボガトゥイリョフ 1982: 43]。言い換えれば、人々の意識においては、同じものの上でも異なる二つの側面が弁証法的に作用することによって、一つの現実世界が形作られている。

タウシグは、先ほど挙げた「暗黙の社会的知識」について敷衍して述べる際に、バルトの「鈍い意味」(obtuse meaning) の概念を用いている [Taussig 1987: 366]。しかし、彼はそれを記号の明確な意味に対比されるカーニバル的な意味として用いており、バルトが「第三の意味」として「鈍い意味」を措定したような三項対立の見方をしていない。そのためここでは、むしろ大平の解説するムカジョフスキーの「非意図性」の概念のほうが妥当である [大平 2001, 2006]。作品の中で作用する意味的統一に抵抗する力としての「非意図性」は、統一された意味を確保しようとする「意図性」の努力があつてこそ機能する。「意図的なもの」と「非意図的なもの」が弁証法的緊張関係を結びながら作品を創造的な生の現実として知覚させるように、文化的表象においては目の前に広がる現実と、違ったようにありえたかもしれない蓋然性とが表裏をなして、人々に認識される。

以上のような議論を応用すると、チュヴァシの口碑においてヴォルガの対岸は、今とは異なる現実の〈裏側〉を体現する世界として表わされていることが分かる。ある面でそれは、野生のイメージをともなう。例えば次のような歌の歌詞。

<例 7>

| | | |
|---|---|---|
| Атӑл леш йенче сын сасси, сын сасси мар, пург сасси; Атӑл ку йенче сын сасси, сын сасси мар чан сасси та йыт сасси. | На той стороне Волги человеческие голоса, — не человеческие голоса, а стук топора. На этой стороне Волги человеческие голоса, — не человеческие голоса, а колокольный звон и собачий лай. | ヴォルガの向こう岸に人の声、人の声 かと思ったら、斧の音。ヴォルガのこ ちら岸に人の声、人の声かと思っ たら、教会の鐘の音に、犬の鳴き声。 [Ашмарин 1929: 142] |
|---|---|---|

この歌では、ヴォルガの対岸には人が斧をふるう野生の土地が広がっているのに対し、こちら側は人々の暮らす日常世界として歌われている。ヴォルガを挟む両岸が、それぞれ人間世界と野生の土地に区分されることは、この歌のバリエーションでヴォルガの向こう岸の音が「ゴーゴー」(кёр сасси : кёр は風や水の激しく流動する様を表す擬態語)、こちら岸が「ワンワン」(хум сасси : хум は犬の鳴き声を表す)と表されていることから裏付けられる [Зайцева 2004: 314]。さらに、次のようななぞなぞ遊びを挙げることができる。

<例 8>

| | | |
|-------------------------|------------------------------|-------------------|
| Атӕл урлӕ лӕпсӕр-лапсӕр | Через Волгу тащится косматый | ヴォルガを渡る毛むくじやらの熊、な |
| упа каӕат. (Утӕ лавӕ) | медведь... (Воз с сеном) | あんだ? (干し草を積んだ荷車)。 |

[Ашмарин 1929: 142]

このなぞなぞでは、干し草をたくさん積んだ荷車を後ろから見たところから連想される毛むくじやらの熊は、その獣性が野生の土地であるヴォルガ対岸と結びつけられている。

人々が暮らす日常世界とは別の、野生のイメージを与えられるヴォルガの対岸は、同時に別の認識を開く土地でもある。次の諺は、今とは別の認識が開かれる空間として、ヴォルガ対岸が想像されていたことを示している。

<例 9>

| | | |
|---|---|---------------------|
| • Атӕл урлӕ каӕсассӕн ӕс кӕрет. | • Если переедешь Волгу, ума прибавится. | ヴォルガを渡れば、にわかには恵 |
| • Атӕл урлӕ каӕсассӕн алӕ тӕслӕ ӕс кӕрет. | • Как переедешь Волгу, пятьдесят новых мыслей появится. | が湧いてくる。 |
| • Атӕл урлӕ каӕсан тин ӕс кӕнӕ. | • Только по переезде через Волгу за ум хватился. | [Романов 2004: 109] |

これらの諺から、ヴォルガの対岸は野生性が「第二の自然」として呼び起こされる土地であると同時に、今とは異なる新たな認識に人を導く可能性を秘めた土地として、想像されていたことが分かる。

6. 結論

チュヴァシの呪文や歌、諺、伝説など、口碑に現れたヴォルガの表象は、その向こう岸が今ある現実の〈裏側〉に当たるものとして人々に想像されることによって形作られている。そうした対岸のイメージは「非意図的なもの」として人々に喚起され、今ここにある現実をいっそう強固なものにしている。ヴォルガの両岸になぞらえられるように並行する現実の二重の側面は、チュヴァシの人々の認識に交互に現われては姿を消すことを繰り返しながら、人々の記憶に刻まれ継承されている。

参考資料・文献

- Ашмарин, Н.И.* (1929) Словарь чувашского языка, вып. II. Казан.
- Ашмарин, Н.И.* (2003) «Введение в курс чувашской народной словесности» в *Н.И. Ашмарин, Чувашская народная словесность. Чебоксары* (First printed in Cheboksary, 1923).
- ボガトウイリョフ Р. (1982) 『民衆演劇の機能と構造』(桑野隆訳) 未来社。
- ボガトウイリョフ, Р. G. (1988) 『呪術・儀礼・俗信—ロシア・カルパチア地方のフォークロア』(千野栄一、松田州二訳) 岩波書店。
- Димитриев, В.Д.* (1986) Чувашские исторические предания. Часть 2, Чебоксары.
- フーコー, ミッシェル(1997) 『精神疾患とパーソナリティ』(中山元訳) ちくま学芸文庫。
- ヤーコブソン, ロマーン(1985) 「創造の特殊な形態としてのフォークロア」, 川本茂雄編『ロマーン・ヤーコヴソン選集 3 詩学』大修館書店, pp.12-26.
- Иванова, Валентина и Михаил Иванов* (1980) Радуга над Волгой, Москва.
- Месарош, Дюла* (2000) Памятники старой чувашской веры. Перевод с венгерского. Чебоксары (First printed in Budapest, 1909).
- 大平陽一 (2001) 「映画的《剰余》の時代錯誤的な再定義について：バルトの《第三の意味》とムカジョフスキーの《非意図性》」『天理大学学报』198, pp.39-62.
- 大平陽一 (2006) 「映画を観ること一意図性と非意図性」、箭内匡編『映画的思考の冒険 生・現実・可能性』世界思想社, pp.79-108.
- Романов, Н.Р.* (2004) Ваттисен сáмахёсем, каларáшсем, сутмалли юмахсем. Чувашские пословицы, поговорки и загадки. Чебоксары.
- Sperber, Dan (1985) “Anthropology and Psychology: Towards an Epidemiology of Representations,” *Man (NS)* 20:1, pp.73-89. (ダン・スペルベル [菅野盾樹訳] 『表象は感染する 文化への自然主義的アプローチ』第3章、新曜社、2001年、pp.95-129.)
- Taussig, Michael (1987) *Shamanism, Colonialism, and the Wild Man: A Study in Terror and Healing*, Chicago and London: The University of Chicago Press.
- Taussig, Michael (2000) “The Beach (A Fantasy),” *Critical Inquiry* 26, pp.248-278.
- Васильева, Ольга (2000) Чувашская республика: Модель этнологического мониторинга. Москва.
- 鷲田清一 (1997) 『現象学の視線』講談社学術文庫。
- Зайцева, Е.А.* (2004) Моргаушский район. Традиции, обряды, праздники. Чебоксары.

質疑応答

Q: チュヴァシにおける「ヴォルガの対岸」は、具体的に北の方角を指すが、そこにはマリ人が住んでいたりして、チュヴァシとは別の地理的空間が広がっている。このような地理的環境が口碑の中にも反映されているか。

A: 具体的に方角を表す例を挙げることはできないが、確かにヴォルガの向こうに住むマリ人の中には有能な占い師が多いなど、チュヴァシ人の認識には地理的環境が密接に関わっている。

Q: チュヴァシでは、人々がロシア正教を受容した後も前キリスト教的伝統に基づく習慣が色濃く残っているということだが、それぞれの個人においては、それら異なる二つの様式にどのように折り合いをつけて生活しているのか。

A: 人々の生活実践においては、ロシア正教と前キリスト教は矛盾するものとしては現れず、遵守すべき習慣として両者が同じ様相を持つ。理念的な面で矛盾する部分は、報告で示したように、両者が交互に明滅するように現れるのではないか。

Q: あなたが実際にヴォルガの岸边に立ったとき、どんな印象だったか。

A: 私はチュヴァシの人々の印象を聞いていたから、彼らの抱くイメージを想像しながら岸边に立った。ヴォルガは雄大な眺めを与えてくれるが、川を流れる水や、対岸や島との空間的な隔たりは、心を掻き乱し不安にさせる。

コメント

- 占い師の呪文に関して「共感貫通修飾語」(p.2)としているが、同じ修飾語が使われる点で「貫通」は当たっているとしても、「共感」は当たらないのではないか。
- <例 4>の盗賊の伝説 (p.4) で、「チュラ・バトル」はタタールやカザフの叙事詩に出てくる人物で、通常大きな斧を身につけた姿で描かれていることから、それがチュヴァシの伝説にも受容されたのだろう。その対岸にいたという「アマクサリ」と「フィールドゥ」は、チュヴァシ起源の形象だと思われる。そうだとすれば、<例 7>の歌 (p.6) に表わされるような、ヴォルガを挟んだ人間世界と野生の対立というのは、チュヴァシと異民族との対立ということになりはしないか。